

第42回 住まいのリフォームコンクール

国土交通大臣賞

リフォーム前後の写真

文化と伝統の再生

①周囲の景観に溶け込む防火対策の格子のあるファサード



②床下浸水後重伝建(漆の街)の文化と伝統の再生



③伝統を守る漆の和室(特定建物)

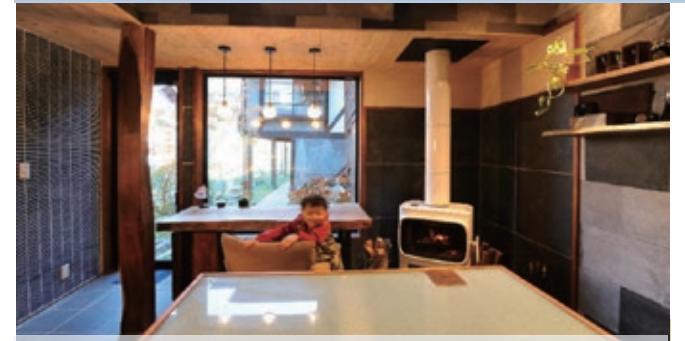


未来への再生

④さわらを焼いた炭で着色した離れとやきさわらの主屋



⑤家族をつなぐ、感じられる、また空気を循環する吹き抜け



⑥やきさわらと和紙の吹き抜け空間



再生前



中山道木曾平沢の街並み(右奥2番が当建物再生前)



中山道沿いの再生前ファサード



床下浸水床で落ちた漆塗の和室(再生前)



大正14年竣工の漆塗りの和室(再生前)



裏の崩れた塗蔵等を4棟壊されてきた庭(再生前)



床下浸水で床が落ちた台所(再生前)

リフォームの動機／設計・施工の工夫点／施主の感想・満足度／住宅の価値を向上させた内容など

木曾平沢の重伝建は現在、特定の建物が崩れ、壊されています。それは、気候変動、高齢化、空き家問題等が関わっています。この建物も19号台風の水害で床が落ちていました。それを解決するため“もったいない”をコンセプトに子育てから様々なライフステージの変化、他の用途に対応した伝統と未来を見据えた200年先の家を造るため移住し再生しました。製材所で変色し腐りかけたサワラの板を焼いて再生、リサイクルの材料を積極的使用、薪ストーブ1台での

審査基準のうち右記に該当する場合は ☒ a.ストックの有効活用 / ☒ b.深刻化する技能者不足への対応 / ☐ c.既存住宅流通・リフォーム市場の拡大・活性化

性能向上の特性	特に配慮した事項	lw 値、ls 値
耐震性能、耐久性能、バリアフリー性能	・家族のつながり・重伝建の文化と伝統の再生・災害復興・専門校生の育成	リフォーム前 0.13
温熱性能、防音・防犯、空気環境性能	・温熱性能UA=0.28、耐震、地震時に逃げ込むコア・格子による防火・県産材	リフォーム後 1.05

データ					
所在地	長野県塩尻市	新築竣工年	1953 年	築後年数	72 年
施工期間	300 日間	該当部分工事費	1,000~2,000万円未満	総工事費	1,000~2,000万円未満
該当工事床面積	242.37 m ²	総工事床面積	242.37 m ²	該当部分工事費	1,000~2,000万円未満
居住者構成	65 歳以上： 人 / 40~64 歳： 1 人 / 15~39 歳： 1 人 / 14 歳以下： 2 人 / ペット： 人				

リフォーム前の平面図



リフォーム部位： ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ ■エクステリア/ □マシヨ共用部分/ □その他

タイトル	漆の里焼きサワラの家			所有・ 建方形式	持家一戸建	設計会社	川島宏一郎建築設計事務所
				構造	在来木造	施工会社	(有)マツモトコンストラクションサービス

講 評

設計者であり施主であり住み手でもある応募者が、10年前に漆器作りを見学した際、中山道沿いのこの地、木曽平沢の街並みに心惹かれ移住を考えたが、その時は一旦断念した。その後、2019年の台風19号の水害で取り壊されていく伝統木造建築の状況に危機感を覚え、相当な被害を受けていた空き家に関して旧知の大工と相談し、再生の目処が立ったので購入を決断した。それが今回の対象建物である。

木曽平沢は重要伝統的建造物群保存地区に選定されながらも、観光客も少なく空き家も増加している。ここに、近年増えている中山道のインバウンド客を含む新たな人々に来てもらい、伝統的な漆器の産地としての魅力を感じてもらえる町として再生するというのが、応募者の強い思いである。今回のリフォームは、この思いを実現していく上での第一段階という位置付けである。

まず、街並みと直接関係する街道側の外観についてだが、ヘリテージマネージャーでもある応募者は、この地区特有の「雁行」を大事にし、これもこの地区特有の「出し梁造り」を活かして、従前よりも一層街並みに貢献できる外観を実現している。地場産材であるサワラを活用した下見板の採用、延焼を抑え20分間サッシが焼け落ちないようにするための格子の設置等も、重要伝統的建造物群保存地区としての景観に十分配慮したものになっている。一步内部に入っても、既存の木製建具、漆塗りの和室など、新旧が調和した空間になっていて好ましい。

こうした設計姿勢の大元には、応募者が大事にしている「もったい

ない精神」があり、古い建物を残すこともこの精神に基づく行為であるし、断熱材や設備などにも極力リサイクルの材料を使用している。先程触れた下見板も、製材所で放置されていたサワラの板を、「もったいない」という思いから、焼いて再生したものである。

性能面でもしっかりした向上策が施されている。耐震性向上、断熱性向上、植栽による日射遮蔽、太陽光熱と太陽光自体の利用の他に、古い蔵が壊された後にできた庭にビオトープを造成し、大雨に備える池を創出し、また水路の水を室内の冷房に活かすなど、ゼロカーボン化に向けても積極的に取り組んでいる。

もう一つの大きな特徴は、応募者が専門学校の教員として大工育成に関わっており、ベテラン大工を指導者として、今回のリフォーム工事の現場を学生たちの実践教育の場としても活かした点である。また、リフォーム工事完成後には、空き家再生・活用の重要性を広める場として、地域の建築士事務所協会の講習会の場として提供もしている。

リフォーム工事完成後の建物は、自宅及び事務所として使っているが、いずれは1棟貸し形式の宿にする計画で、設計内容にもそのことは織り込み済みである。今後は他の空き家も買い取り、同様にリフォームすることで、今この地区にないレストランを誘致する計画もあるという。応募者の構想は今回の応募作品1軒にとどまらない。

以上より、本作品は国土交通大臣賞に相応しいものと評価できる。